



大地震のゆれは、何分ぐらい続くの

1分ぐらい続く

1995年1月に起こった、兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)では、6400人以上が亡くなり、こわれた建物は、25万以上でした。

このときの地震のゆれは、とても長かったのではないかと、思われますが、わずか、十数秒しか続きませんでした。

このような短い時間で、たいへんな被害が出たことから、地震のゆれは、すさまじいものだったことがわかります。

大地震のときでも、そのゆれは、長くても、1分以内でおさまります。しかし、大きな地震ほど、その後、何回も余震がやってきます。

余震は、初めにくる本震ほど、大きくありませんが、本震で、こわれかかっていた建物が、後からくる余震で、くずれてしまうことがあります。

あわてて外へ飛び出さない

地震のときに、あわてて外へ飛び出すと、かわらや窓ガラス、かん板などが、落ちてきてたいへん危険です。思わぬけがをすることがあるので、まわりの様子を、よく見てから落ちて、ひなんするようにします。(監修・国司 真)

